

耕畜連携によるエシカル農産物生産の取組

現状と課題

○堆肥

畜産…流通停滞、ニーズに合った品質

耕種…労力不足等による堆肥利用減少、農地の地力低下

○飼料

畜産…労力不足や基盤の制約で生産拡大に限界

耕種…県内事例がなく、生産のノウハウがない

○生産コスト

農産物への価格転嫁に対する消費者の理解醸成

目指す姿

地域内の資源循環型農業の促進、持続可能な農業経営の実現

→“堆肥”と“飼料”を通じた耕種農家と畜産農家の連携

県の取組

① 堆肥を通じた耕畜連携

良質堆肥生産態勢の構築

- ・良質堆肥生産研修会開催
- ・堆肥成分分析や発芽試験実施
- ・堆肥広域流通支援

モデル地域支援

- ・堆肥施用機械等の整備

良質堆肥

② 飼料を通じた耕畜連携

実証試験実施

- ・講習会開催、実証展示ほ設置
- ・耕種農家への栽培体系の提案

モデル地域支援(令和8年度実施)

- ・飼料作物を生産する耕種農家を支援
- ・耕種農家が生産した飼料を活用する畜産農家を支援

飼料生産

③ エシカル農産物としてブランディングによる高付加価値化

畜産農家と耕種農家の結び付け

→飼料や堆肥の供給条件等の調整



・エシカル農産物によるブランディング、

高付加価値化

→ストーリーテリング、ターゲット市場の選定、価格設定、販売手法の検討

・エシカル農産物の消費者PRや試験販売

・環境負荷低減や地力向上の取組、農産物への価格転嫁を実現するエシカル消費を目指す

耕畜連携によるエシカル農産物生産の取組

子実トウモロコシは、家畜の飼料用に栽培したトウモロコシの穀実（子実）のみを収穫・利用します。残りの茎葉は、細断しては場に還元し、緑肥として利用できます。



子実トウモロコシの収穫



収穫した穀実（子実）



収穫後に細断された茎葉

三浦市での試験栽培（2023年）

草種	品種	肥料 (10a)				農薬
トウモロコシ	パイオニア93日 (サンテックシード)	基肥	高度化成 (13-14-13)	154kg	ゲザノンゴールド アルファード液剤	
ダイコン	福壽 (みかど)	追肥	マイルドキープP020 重焼燃 硫酸加里 化成肥料	90kg 26kg 14kg 38kg	D-D剤 フェニックス顆粒水和剤 Zボルデー	

草種	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トウモロコシ		○				✗				
		3/30播種				8/10収穫				
ダイコン							○	✗		
							9/12播種		12/15収穫	

子実トウモロコシ



子実トウモロコシ



茎葉部の還元

部位	乾物収量 (kg/10a)
茎葉	1,242
子実	1,146

茎葉1,242kgを緑肥利用できる

ダイコン



全長 (cm)	根長 (cm)	根径 (cm)	全重 (g)	根重 (g)
71	38	33	1,518	1,354

センチュウ被害度	へこみ	曲がり	横縞被害度
0.0	0.0	0.1	31.3

センチュウ被害度と横縞被害度は指數